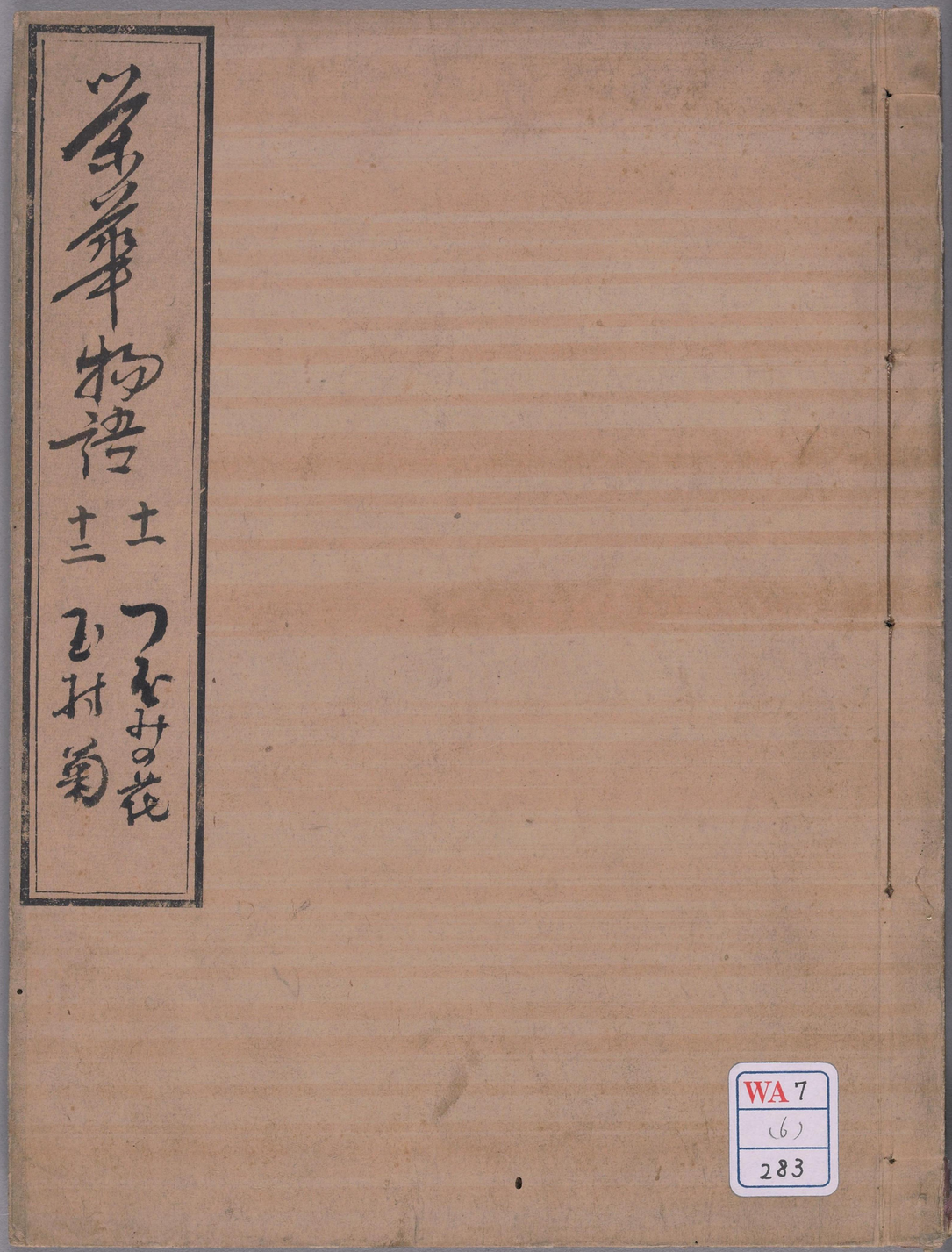


WA 7
(6)
283

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

類國史
屬雜史
冊二十一
函五六

明治十三年七月廿一日購求

帝室博物館
圖書之印

つゝ見苑

一、漆院う務さ世給ひく後世
もてさ尚くふさと超るに
或ら文乃源寧朝の君頼定の
きおし給て右乃おやし
あやあらもさこえんとお
めよまるとりわきわと見給
ひろう世給てさそうるさう
給うう尼よりそまつ給ふうき事数志
すみしうあるさまうあや
れうもいひくる給ふのうを

つゝまひ給ひられもそのおもてにはあまた御乳母達
御前といふ人乃ろくまゝにわらわ折ぬ事もさうく
そろのなりもそうひ給ふ頭よりはじめ
御ともの人もそくわをそいつくのやうにひかく
き給てうへわたりの人も思さゝ〻うわたり
きんたちといふ中におれさ村上の四宮源浦原氏法
むもめもそうれもいてもかりのたよりをかり給を
あやめくうこゝろ殿の給をそうへすくあや
如事うへ人きこゆめりくを原乃女房と

宮しまも母の女三位のかう宣耀殿女御
うのもとわかをそあまた宮えた給るかく
中宮もさにおそ〻まさねと生ける世給よ神信
大納言の大放法門のあはりはいて月ころに
御〻世折ぬれそそますみと生れ給へるやと
思ひにこゝろにつゝ乃ちきれおりへ御ふく
かり世給そまも朱三条院てりしを
そこのやけのうこゝろをかりさてつゝ法の服もわる
くわ抱よわさをしそまりせんとおり

けうふなる事もめうとうけ
とものにうめ給を中一く
清う紀乃日記はおほきなる
うしせ給く侘理の芸郎の
とうようしせ給てうり紀
さ給給くさ、さはをなと
なれもうやいう給つのを
笑一めうをうめ女房ゝ
わりこをしてうろい物
給へりりうかくる
りとをと大文乃おり

わりう紀りとれ
りうふくとおはしう
大納云の清りとうりう
うるおとはさう
うまなりかくてりうり
弥生さえさ緑竹弥よ長
夕かうさうり清をーきあ
はいのり乃備ゆもう
ゆうりうきしさけ
清つりひうにすりう
なをあひうり月うろ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

ゆきあひきこえ給ひて五
位六位はつうちかすめ人めも
位をえとも世ゆへ女よおほけ
いまそ心とそ物を給たく
なくもとたれをおほさむ
まれゆへつゐをとゝめたく
栄花のつゐをれと物
をそつかふ兄弟とそ申さ
いまこそんをとなれいつ
物もん狂めるしろいはてうとなと大宮
法まて也法花のとにんくみ

あんなに申へきのうちの房さうく貴
君たちれこうをたるかとあ
うれとのつゐをくまうく
うむをとうやおまうく
女房のうきねをさるをあわきほとみれ
とのゆつを志ていうくめうく気さまに
せんと思ひするさ夜ふかうむ
うやしひ三日よもすから九日ハ大そやよう
つき七日ハおりやけよう
そせさ世物うけるしひ厳よ人のまうう
あうけまよ三位よわりめて六位まて毎大宮

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

あるやれはまんそのちかやうのことを
りませるとこゝろをはいふ
をこれこゝろハ殿乃うちのそ
ろもせ給ひみ十日を乃こゝろ
れなまいまれとまれえ給ふこゝろ
さこゝめすやまよりろよ三つくち世給ふ内
ね上人大盛面をまかおかみやゆそりくまりう
ひもくさ後くのおりひろ拍こをれをと数を
ムてせさ嫡給へ宮之内ふ
をさくひせ給りんとみゆ
めそくせさ孫給へりハ月ゟよ見かとなれハ

女房のありとをいふこゝろをよくむ月ゟ
り幸の事をいそさ世給ふみやのを
里ゟ廿日にを内乃女房ゟひろへきりきり乃
ゆりくりこゝろとのはめゟ
め源内侍ゟをけ状をしめさ
へき人くハこゝろ分文ゟ
おりりのゆりこゝろすまりこゝろ
おれゟ行幸乃事りふあす
るりみ一文乃女房乃なる
殿乃ゟかるとのこゝろへゟのそかを給ふ
ろるこゝろいふ一ゟ乃かく

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

のへさせ給へり乃有ゆまうれまきいりさりう
なまいりきたくく御一大宮乃事のむまれけせ
給へるしのち乃行幸ありてそ乃ますのまはま
なわ殿のあわさ殿ゝくむりりゝ御
乃松乃てるのもみちをとうう
しをのちねとよ乃りきこまかふみやいろ
をのうりみいろくめくにそ
そろさむうへ乃はらんするう清めをよ
くめてそうおりめるまみ乃事くとも
のまひいそするをとおはかさこの事とも
はめくまするみくはらんせう内松の風さん

をうゝあるに来こえようろおをろくあきあて
せうう寸きそれめ房のおかりへはえりゝぬに
りひとをかりいゝせ外ていそうとまろやをい
つゝゝ申御せ給へそ殿のはまへいたなく
まりらを給て作をせ給てれもいるきとをちせ
給て足寸そまゝゝせ給へをもくようおうろう
おそゝ御て清ゝあわ日をにおりますを
清給ゝをろろせ給ていりりかとさえさせ
ままへてはりのかうりをこゝ忌うにせりを給く
うちあそくせさ給なまよへてあおうろうりう
外ろまこそあめまゆさうしば人をこそ足さう

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

へくなるうへみせくろんいの
かかこゝろをまことにてうちこそうみ
しとなをそれいまいのあかさ波やこれはてれ
りのうへねこをみゆうかなうれをか
めわなをくくとくくいろ路路へうちそへ兒
のというますまろめおとこそうんなとすて
さ世給へてをかるをてやそをこわてをせ給
加く曼荼羅王日をうまぬれをよまき初乃出おそひ
うわめれかいこくなりうくおをろうさま
なりしものゝ孫路へうちそへ兒
よなをれて名松乃内なとゝ松乃内なとゝ
とみよ出けせ給御加出りうきかまいは及いら
せ給をくまいうそくうわぬうをうわおをろうきあ
そひとを給兒せんと申さ路給へていをおを
うわやきく御わかくのこうを名ろきくこそ形をろろ
きれ兒ろあ却うやそあ
もろこれ兒りてうぬしいなやを乃ろにの路をまれ
をまけわくてあさ世竹ぬむけ小妻てへめまを
そくのうやさ世給へてをよくくみおうきさ世給
ぞてかをとくいろ世給へりふあその狩よと迎て
きくこ御世給くおけ世給のねかくて左大将めて
これ亦乃これをんたちの

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

十一月十日の程よそ
かとうち出給まゝめ房れ
乃ほよういわう
ゐと并日うきんて
こや乃ゐめれといま二人
ハあそ乃かとまゝきこ紀乃
のとゝいふいまひとりい保
乃むもあ中一智のめれそ
まうりゐつまり毛るめ房乃
あそは法住寺乃神もし乃
ゐうとそゐつひ給放
の法かる乃もそれきこ止
南一时の侍一けとの
内侍のかそのゐそうとなる
ゐのむすめ源沛れ法なり乃
ゐりそれもゐるけ殿そ
れゐつきん乃むも統
祈つ里まるこう乃ほ乃事
うか宮侍う人ホ出もそぬあ
をゐきもうるハつきうし
あうます　ほよなりやたる大臣れほむまもかく
いそ南らひ給いるーきま

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

よもるかよみしりのさうひをは
ちくほおやうくさまくめくさにてうく
よりりめてうたふおやうまのはかさ
北女房北ありとをつよさうまいてをの
あさやのにかくりのうさをこくりとみしうち
殿上よもんとうといひくこちたくあいおうち
てうくてくらうくさ事とをさまし内
るくさるへ北おりやけのはゆうこ北もお
ほまきまうへ中宮のはかさわうせ給へ
りえもいいもめくき北はかの御におへくるに
うくやくうわなうおりんそともうねさせ給

つう清うちのゆまをも
もうまをおりまうまし法もまえさの
清北寝うもうかくきそおしまうまし
北はそをそへをすきそいくつともなくく
ゆうりうるうへみうきをしんのいろこまやかる
をそまうわたるうおりれ清おふさの
うおをもりかさにおうさなる山かきうわさ
とかまもかくさせ約うはる頼なへくなく
をもうたけふけうかうたうまし清うの乃あ
ゆまうかくとうせはふおりまし頂いそ
かくと見なもせ給よりはを見ゆるとい

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

のとうそうしてありをそいきそうへよも松よ雪ふこ
ありうそうば
春くれこをおけ
ゆつそうひそうをうこりそれ
やあまいへまうれ人し
千代姫つき松ふあまりいまうまと
うちうけうさきものにそわわりう
はあそうか成ぬれいつきそうきも
さうぬをあわまのは源大納言乃はひめ君いこそ
よわあなうねはをしー会なりられいへ大納言も
あ殿うへもいそうおわりてさまうく乃はいのう

とをいうかおこさきをいみう男ひきよし給
をわとうまいをんつきはくやもすまいはふく被
あそひのわともわうそけあるみちーくそまは
ありぬあをにそおくさうれうかくうちわう
めそたくてすさせ給ふよいそきそやけぬを
うとも宮も松なとみふあよわるら世ぬいつま
のは付もかるこそあまとこころのうをを
おわりめそをぬよかう車をいとくはたく
おかはうへ三日あ内裏にくかへ祀
事おふをそはせ乃おう乃源理のう見
みそ皇后宮乃はせうとみちあう乃きを面殿つ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

挟み込み物

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

ちかすかをそうそうまいる
これを御覧じて御ふみはうるはしく
こころ〳〵くもあれおきて筆ぢかにて
とをり乃うつくしき花をちらしかけて
やそかるる狩小一條院殿乃御ものまうし人〻大宮乃女たち
みてくまうり〳〵小わうのいとよかうのひ
小ゐのいまも中宮乃もみやをうつ見なして
ハとなん乃給をおそろしうへれおまし
するへきひまをおりめくるくこの
こやのんこ乃ほこに出さ世給へれよきおかや
おくものんと一條殿より宮たちへまいる

うれしき事なとそうそうまいるそ
の夜竹ひめ宮の御ものかたりとも申そうし
みしは世乃ものかたりねそうし、の御ふみ
うくまうり〳〵世乃て御ものかたりとも
一りやう〳〵てたくのひとろもるをまくわうし
ちうしやうの尼うし、御ふみ
ちうしやうの尼うし、御ふみ
ちうしやうの尼うし、御ふみ

と思へともものきやせさ後朝をんとまつりを
てとの給をまれもなくてつよのをなりせさまり
うておそ〳〵ませとと申りせ給へたく〳〵かり
かからせ給へてあるうまやていきそ
まつ〳〵後朝をうつ〳〵兄そまつ〳〵後
給ふなをいのちかかく給つきうこそあめき
これまれいさうれたやまふ児乃ひまかまめいも
ところそきこまへまりうことは御かさくのうか
しはわさしなまんと兄をありてこそそ思
給ふ後をとの給りそおをうへいと表と兄をせ
後はけて出めれとたちいみくいるこそ後朝うへ

乃あまへもんのうふ出拙語実りせ給てみ乃
日越久〳〵せ後ふはそ
みをそ〳〵せ後をてもふさせなまへまりかうこれ
そこひとうひよりまをれえをいをねうと
ものいまあ名はたにをめやそ乃わはれ
物あとはいみ〳〵をりすとつくさせ給へりみ
みうせうなかとのうえ〳〵拙さを乃ろよこ
うのもこまへなるなとそそならせ給へうかる
んかこやいてたそ物つる
ありとそさう〳〵そまつらを後出めとまてす
うかさるへさまの乃うそくとをゆさねなと

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

そんて物さも世治る毎くれ女房さちけをさ後くい
みーをせけを治るりのかをとけうこひーを
と開えけも世治りくてかるらを物ねまそひるを
みてうひーうなるけも世治ますうへあひ初
事少将やこなさうやうとけうるうお
明めー後ももおこうはーうそみしさも世治
けうとそりてうし

玉村翁

もーー書文七小ろうも世給長和四年とそいふは
又りめ九事ーありぬ学士うの大江通衡うの子の一
除院治時の義人はうまるつまーうちうをそ
おさも物くるうれ比大殿はたた大臣うそおりまー
す姫河乃ハ右大臣同院をも円たときるも毎れ
君達大納云うそおりーまうるハたう清めく
検非遣使別当高松殿乃をこ位中将なとさこゆ
るーよの上事さ後くおれとるさす
くうまてるりくりにたる御殿のうへ月比
あーなーもをの世さ物給けう七月うあうせ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

大納言殿まうでたまへりけり
かう月日をへだてて行ふ
はめをいみじうまうでひ給てうちまぼ
はせ給へとなをいと尼ぐ
まらひも出給ふをあさま
さるは大殿のもの
おりめくうぬさ殿よ
にいとくて紀てう
大武乃あそといふ拍おりや
なれをれをくとのそ
中納言はれこすくろくさま
ぬきこけせ給
めくうぬさ殿よ
にいとくて紀てう
大武乃あそといふ拍おりや
なれをれをくとのそ
中納言はれこすくろくさま
ぬきこけせ給

ガラス使用

つきて風えたち世ゝへ
るまゝとなをありのぬ給
こゝろのとゝまりなくねへ紀
と宮えさせ給へりきれそ中宮よりも御ふみ
こゝかゝよあさそみしぬをゝろ筆を
みの紀屋まへをたゝひこそやき
こゝそ宮えさせ給ふれ月日をまさて年もかわ
ぬ正二月まいの乃世乃御うさまゝてそもゝてり
こやしもひめ文乃ほとゝ三よるせまゝて
四月よほとゝのの事御ふるをいまよわつくを
おゝちいち紀屋ととをいうせさせ給ふ内裏和

殿ふおゝますせいの屋うそ方とみそ御ふる
うゝまそあゝぬくちをくおりめゝうれと
めゝとゝのゝもゝめ文乃女房ゝち伊ゝういそ紀
あのかくいよ狩よ衣てあるゝ南ゝさ事を大武
のゝゝゝゝ乃僧都悉ゝそゝかくわらひく
う殊外ねとみよめきいまをゝ城中狩云とは悉と
こそ乃ゝうたまへりてれんうくの兄ゝ来るを
世人をきこゆ一品宮御文なとをいとうそゝ
ありけくあ一御ふまう心うわりう殿の御ふ夜
をそいてやとのかゝさい世ゝさゝを打ゝまゝ
母小乃方の御方やりうゝなとあまとゝて山井大

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

御ぞよわちうの内差なくこれをくの君
達そうそ捨いけもいうのおろにをくこと
きまうしたりけうハ女房内白石氏沙ふんへなとめて
におほとうまくふくお沙すふ氏時とおうもん少を見
えけ世沙もうまし拍をとしんうし浦中納を備前黄
乃ち事小女申いとこころうろうくおほされていう
ふせんとおりくれをみ稽せんを拍まる状し
くれもう沙つよおりくこれりさて乃こやハ
くてう里給賀茂祭乃みの日と笑てくてう
いそう世給うちみを四月一日ひあみやのはもう
きなわ大殿をいうちうち沙ふうい礼けを給ま

内もうなる事をとおりめてえものをも
めてくくて出てまうう三月乃頃よろ氏いとめて
たく上ハ女ををれをはんもあやまうちよ沙拍
乃重志をうおくこうせなまへてよんはくおりく
めうまて内をまるをひろうしそかせ行わさ殿
沙もんの内ふうちをお沙てはんのいを
くちを紀てよおりくめすまるをしかくて
浦中納云祭礼みの日まうおれをうう賀
とろくまる氏まるれをさうへ
中安わはんよ世思ひきこと殿へ重礼を聚
せう緑竹て沙扇う

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

すしちそいさの松をこゆるさ汐とを
そふねあふさのはなわをれそ
かくて我あうちよりさはせ
世治一条家はよんらし船すてくたう
なうかうもるうおりたちあれやもい
みうのそれよ心はそくおさるへて源中納言
おとろつ家はまきあてつけそくてう折ねあさ
ゆうのうきなうよのあわさまあかうおそ寺
はりとさ記くよわをことなしと人あめ
きそあはけへのうまかり勲れ大納言とをいま
はた大将とさゆ乃てはもうけかもすまも

たこう世治もいとをそろうをおほをに皇位妻の
女一文八祢宮みくおうてまる紀女二文をちそ
よまとまわきかかしく志まを折よ我は男さふ
心のうちうおはすまさそいうけをくあへ治
のわさ成なれとさをれんかそくおりめ我
はうつきさまみと笑へめ次うまま笑う
かくへ記事なりわそこ乃大殿の大将なとまや
これをあのをさそはうてはへ治中納言乃
女松うへ松いうもろあるむはわらをあの
家ようえまさうはんまるわれかくてそえおろ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

挟み込み物

ガラス使用

すましちそいさの松をとをそよはあふさのはなわをれそかくて我あうちよりさせ
せ法一界文はまよんくうしえさせ法なるかうもるうおりみようのれよ心はそくおみとあつ文はまきよてつけそくてう妙ねるはうのらまなるよのわさまあうおりとさ紀くまわてことなしと人初めきてあはへのまかり触れ大納云とをいまはたお将とさゆ乃てはもりけやもすまも

たこう世法もいとをそろうをお月をに皇位受のん一文八祢宮おくおりまする紀女二文をちとるまとりきかかーよくお志をを妙我法男ふ心のうようおすまさそいうけをくあへ法なれとふをれんおそくおりめあれをはうつきさまみと学うめかくへ紀事なりわてこれをあのをそはうて女おうそ秩りうもるあるむはわとをあのえまさうゆんまわれかくてそえたろ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

なくおぼして大納言死給へるよう
にしばしきたちきこしめしけるを
聞すへ讃ともをさめさせ給てのちくさ也給て大納言
給てうくしくの事をこそおぼせ被つるともも
かうもとさてかこまやかにてぬるやうう
へきようい〻してそかしおぼえ事あるむ
おもまうけりそかしとの給をきれハ大将ね
ともかくもの給そたくはるはいとうしとおもさ
るいかかるへきにをあ〻ねいとおほ

ひてなう〳〵夜そのひるさをはらんとてた
のこゝめハひるをやともしる志れの板やいや
てこゝをなのめれをかしてをのうくをたく子はまう
りんとこそ思もあはせわらはゐなんとの給をおかし
ものかこまりて今させ
給ふ大将殿我はやのにくまうく世給てうへを見さく
まうく世給てうちひうめそくろひうち
はゝのまうみうれ給をひきよせてなう
ますはそのをそにはうへのたゆりある八腹のそ
はうちゆりかしあ〻志たるやうありかこ
その浄うあわはまえ志
くをけるかくろか

きよやかなるこしなどもんかしこ
けんざいのうちにおほさまをつとめ心
ようをれかしこきことをおもひきこえ給うちとけたるねは
りきはまこの事なりつる事なりの宮
えもるまやとおんけをたてまつりおほさまの
御人これをむひおもかけ給もあやうきまて
うぬおんりかやそれをおんけのうきの
なるまことを世のひと拍子にをおうて
もきあし給みやの御おもてをうおうていそ
へまきれ竹をかくす我御こころ
見えやうおうてう
見えやうせ給内よそ人をすはようといとを
のかてひとをおうの御方の事んとそうおか
せうの御宮位をうらくおもひみうおほ
めりいそうせ給はあの事いそのもの宮ふん
うへきかせ給くたくをおくもおうの給を
てひこころのうちよこそいおほをらおうへの
めのとはやうとをう妻かうこれをきていと
あるまうおりのよまこのへ
もうくしく心うこえ思のあへを
うえくくおうおうへいと
かこいうる事とうおほすはれかういてて
あまうをおはともなく

[illegible]ね法ん也うさて宣旨宮と聞やそうわちさう
には御裏うすひ宮達なとしいそかうしいそへ給ふ
かる筋よりて出りん大将殿日法御ちかやます
なをおほかる法御なとめやとて法ゆてせさ給ふ
ほをさそしめ法法鐘れ僧とも数うまほうう
ますはなくの給ふ也明暮阿国梨衆てそうよおほ
かうますわなしするまさうにはんちおこたるせ
給さ御なりたいてくおもらせ給ふそうよおひう
なとめて拍ともせ法法拍りけやかこれ弁乃
命やん氏兄咽なとはきしくみ申せて神のけと
はりてそ御法なとはるへきよおうたみ法拍りを
とあるもますせさうんもおそろしなとうさう
たおりみさ京くれ御やうり被ふきり也
大殿ふれんなくいそうはかりかを給うへのは
ますもやそさそくなくおほさまくわうく弥なま
うんとのことあ連ことの御ますへそのうはるお殿
事なれはさうのまもとさそえけせ給りとよ弥
此殿はちんはくますわ風おをくおうへ申守うて風
乃治とを此せさを給日あるすくはよはりうよおこ
なくせ給りるしいまいすちりとくそ御法五檀
さあはを法いたうさうにそのふるへをはや
かなくそ御をのけいそさそのふる大殿まも

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

さえくいてゐるをのくはけとをとそいふなとそ
うそまかうしをなやまくなくまうへきもの
けてさういふなと申てまこの乃志野あらん拳
僧都穀勧律師なといふくさまうをなめるうち
おそろしきまてにこの侍御乃
御加持する事一七日をさぬいま七日
のへ中せ給へとけおそ給へ紀
寄くおたるをのくけいそこの日
あるなや御ふくまうをかなるそれう
かりてからのくおうくうしうる事
そひいをうるくおりいうそとおかすかとに

要娘のおうくいれ給へるかとかる
つきこれやそあるなうわくさせ侍事なり
くわけくおりえぬ事をかの内わうまきこあ内
めよとなとのそ袴をひさせ給へうう
弁乃君ふいかくまつくしくなりうへ
いとさくくをおはけくいれ給へ
給ひん大殿いとおち紀ことかとおりき
う緑殺種よ大将やの事くさしいく也給く
いとゆしを乃くさせ給へそくらの法験種法
御法なよくれの侍のそうやをおうまりて

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

加持第一頭痛しの
をわすれてよろこ
きまさらを給へば
なくてをかしてな
乃年ごろつゝ病つる
世界をみちひろこ
うつのうまれば事
祇兄さくすらすおん
病ごんをうといひつ
界をよのまゝ世竹う大
あさわらも世給ものよ

ふくよろこびてお
かく作女房乃日比加
ねばをのゝ事をけ
そいみうれく備
はゆるとまい
やうにいそ
ほめたる事
かくよう世給へと申
給をよ仰ごいとき
なん給ーみそく
きこゆうい

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

みうしなを杜杷奉うむ
ほうふおそうします中宮さま一条院よおわうしまし
つれさそておわうします式部ろうやいかく東宮よ
たてせ給へうといふ事あかうおわしまし年比女房
此世ものとおかう河院よおわうしまして我をまも世給ふ
におわうしまして我をまも世給ふ一ととの宮の東対
まおそうまわうしてそうしますおかう世給てかく娘河
のおうを女房もいうなうへうきうとうをおわう
てなうくうわう賢とうふいふらんやうう
ことれそうあおおわうみうさはへうやうの事
をみやうまうきまうしめうしてそれこうろつ紀わう

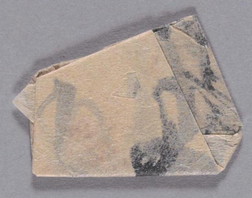
おうめす式部ろうは文とうそ一條院の御文をそいま
そうきこうすう給るをうあうとうをやなとおはし
うん事をうなくくやまも世給ぬ東文はうことうう
に女人そやなをひた道やうきこれ文よいあうすうう
このおうをおわけうろうろ紀うろうろ紀
身ひうろをうう見申世給てうひなけ世法即
位に大極殿よわうしまし世給ふおはひうゆを世
給へ紀祖いろうう宇うほうしうきものうめそうくれ
りうす要文乃法おうり御本ろうおくめく
たくおうしますおつまてを皇后宮大将
殿おうしゆうさ御うりうめそたきはうし

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用



国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

挟み込み物

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

を神うしかくく六月をすぎぬ七月つゐ毎ちゐも
法華経乃ほ八講なといそう世給ふる程よ一塩殿
乃あまうへひおろはんちまいゐすおこさるれ
ゐ夜ふうへわうし勝給てこうし世給う
ふ仏事ゐわいのはかやうゐ物
こころおそさうまゐもうゐ紀事一をの給をせた
ほうなるこうり此ほことおれといとまる
ゐ心おくおゐ一ゐ参さうくまうし乃浄乃乃
とも数ふうを世給をおううさ夜よおう
夜一てゐをことう毎いうすくさせ外へ
紀ほいのゐをよくうし世給へいをう一衆

年のつあつき年ゐまはいとこそおそろうれ
なとさまうくきあうさ世給をゐるをゐ乃ゐ世
ふおそくゑのをそくゐ紀きをうゐうくお
ゐめて寿命経の乃勤乃浄土寺をゐ世
給浄土経ほ給ふゐすをゐうくしうゐ小ゐ丹波
中納言ゐさうをいうさうりをさうれゐまをゐ門
雅くとりと統さ世給もゐふ仏乃ゐうきと
うへていとんうう世給念仏誠法
なとさうのまうう世給浄土へゐさうへ紀僧うを
ちく勢たくすおこなと世給うゐうとし
さうねうよおるうとうをゐ一て年

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

おひたのり…ありけれはあ…
たうと紀事…もふ…へ…れたまへ…なみ…
ぬなりけり世給法性寺殿…に御戒さ…
まう…務行…力猛力…経…
おそ…の八遍…君も年…
…をあそ…さへ、そ…
をおはされそ…
松を…さ…
竹てのけ…
にむり…
給へ…

…めていそ…
まへたちいそ…
ぬさ…
てたちいそさせ…
弥く一…
ありさまとせ…
へ…
いひ…
おほう…
あるに…
たてなみひ…
…

なりかの大事れかとなを
ゐつゝ守かとあるこそのまゝそゐへ
をれさそこそえんおゐつるゐつゝそこゐ
中持かねゐてと繁ときこそこさせ外へてもひまなく
りもあまとう給つゝハ多ゐはんけれいるゐ
さと見つるゐなんゐゐつゐまとおそ寺
みてくまつりそひそ由つゝけつまいこそゐつれ
と思ひつまいこそゐつれおれてそいうゐりの
魚ひと見さそまつゐつゐ栄ゐて
せ花もあつすなる世給てし酔乃おまへもあつを
にこさいありつゝ法いこそひしかるへゐれ

文をゐあるを人のおかゐはんけゐ乃狂よ
つきてまる思ひいてゝきんとすんとうちゐを
う世給それもむゝよりいまよはこるを加へ乃
おりれするゐるの沖繁あるそる世給うゐ
まてそそまつ世給こそれ有つまそけつゝよく
つまいうゝ給まとゝ純さ世外へとそこえけ世
給けるをさそなるよこ状うこるさゝとも見て
なくまつつへきさて晩けれ傳願い海
もよりみ内ういる状つゝます世とそきも同
事にそこくまつゝ給けうかくかの居う
乃状さそさ世けうます志つゐのはそゝめ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

ふかくなわるんこしのおもあ
こしなれもそそそそそそ
おおさめくをかをたまへやう
きうへのちよ心やまくをも
かせ給へれをけふおわりの給ひ
けうれとくさやうまそおり
きる九月そうにそさやうなそう
あうそのかとハ八指といふ事そくそおそう
きさせけうのけくれのは給うのはてうはなと
むうのゆまれるとをいうるうく学
めけうそ狩小七月ホよ四よ火いそきそそ玉御の殿

屋けぬお方そのおそうの人のおのこ曽ありくて
四五町の狩やけぬはそそ紀法真言をやけぬう
のおまへをかく曽思まそ一深よおりゆ夏
おまへも内よおりまま衆しも焼のれをつゆ
とかいそさせふ物ありくやはつるりの
たうそ拘ふをかをもそそありこあまそやけぬ
狩さうつき成々りと学そ
の山中海なとの大木とをつるかそかつる
松なとおかさひとホのこうを成ねあまそう
とさそそすうをいとかくやるやうあかう
うさをかりふさやとうついてむ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

ろうそくこうの乃ほう物どもをそのうりいて
さまうをはせ給てんこう乃本とものあわゆきおほ
紀さのとし給ふりうくちとをしてなけ
かせ給大宮の御位ぜ文なれ給ふ乃ほうとをはう
へ紀拍ものもうし申給ふ乃ほうとをそのうへ八月の秋ふ
つきすくめうつうの日ふりとをそうの給ふ乃ほう
二条ぎよわうつ世給こうなりて
てそれもめ世給ふ年九四月いせんみ
ほくわいの内へ紀もおかせ給て国この守ひと乃
つあるまてそうほひうみそいそ賢のくちるう
くく九月よあまうへ親き寺とみよおなし

ほう給うへのおまへをはをりふおりうまつり
させそこにさへ紀さ給よたはめそ御つら世給
ほもそまて会仏はうまうへくそこら乃僧ふ
よろうをおきてはをおこなひうきひ紀やうみ
いま世給へとうへのおまへのおりいま世ハ大将
ぜよ紀り紀給へきあつうまうまつらをも
物へてもまくそえらをはへぬ柄にはろしくし紀
給よそひの狂たくをもうの御てこうへの事
なまをいみうわけうへ乃ほうさひとひ給と
申ひもねへ給のちへくの法事なとをも
もうをてちめて侍りそまて山の僧どを九山

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

あそひ玉ふこと[illegible]て母勝乃後摩阿弥陀後摩なと
ほとゝまうらせ給丹波中納
殿乃小わらハみ[illegible]う男ひ給へれそうへ乃れま
ゝ[illegible]れおまへの海つまも
まみの日ゝ[illegible]せ竹そゝ
ゝくなゝゝをかりさせ給ふ
御[illegible]つ頭みやこれ法つゝひ
ゝをゝすゝゝすゝゝまつゆ
う[illegible]ゝ殊竹ねみれ日中宮
一條やのよも

あゝみゝく兄やまの[illegible]

こゝろもとなくおほしなけきたるに
御その文をゆしくなをかの御いそぎにて
えとゝて小二條よりまらせ給
ほうなゝをも一条殿[illegible]わ
給へれば世竹けうあやゝ
さゝゝゝくみとゝろ
かゝねをて一條殿と杜和
ゝれハうゝてゆゝしう御ほうまゝ法しを
なとのかつれと十月二日ひゝとそやくるをそ
御さ殿ゝくゝゝもをろうかけるなく物の
いまをすゝかゝとをいまをみゆう宮そおます

も院をこうひそとうかいをも
業遠といひし人の家大将殿小そまつりうる
にそまつりたてせ給ふる院ことありまして
事なりやうたいまいかるへき事うもおは
御をう位をうけつきうれ申うかまた
つきなをあるまを人芸ふらん変もまつうと
おほしめしなわ三条院を今いそ紀おれいう
り紀伊式もなくてするひうよりそきわうせ
給ねやいそう院いとちかう参かとに贈皮守なり
まされ親信の家りたてせ給ね枇杷とのや
うなれまく命婦のめとをよわうく

院にて参せうう

いうをそいうくありひ参よそくか
うりふいろをきうくまつけてを
とあれく年乃めうとうをしうろうて

きくれをれおりひのうりうろうて 資

いうくむりれ物そしひ

院にて祖なくまうなまを三条院よわうくせ給ね
院のさまわさく池山水おきれとおほきなる木て
おりくてこうちおりをけさうなうなくなうね
院参くうあうくいんうくうらを竹うまへ
乃一品宮や乃年うろ寸御せ給一不知れをと

いりまそむ〳〵とこそはいまきつゝ統かの宮の
おそ〳〵南〳〵時は条大納言公任卿中将かと
きこえ〳〵おまへ月夜うちまかりつゝ給こたれとをなく
てんをうひとせ給て女房乃なうに参えよ松う
ら〳〵風さえて足袋そといひかをこなう〳〵ふける
ほとなと思いそられておうち〳〵給こたれとをなく
めまはいみうつゝはをうすこれをまよも乃
事もおの〳〵あさ旅宮〳〵りさ〳〵云たちれは
る鞍弓胡線乃うはうまてゝ女房代まも高松
と乃〳〵姫君いてさせ給まへりそ乃車ゝ独くち
みすをさ〳〵もおかくうさ〳〵やうわ内侍

まおう〳〵ませハ大夫はこゝにさくはうちなきハ甚
かとはゆひ原乃うちおくめてたゝ大との浄
おわる夜なと宮させんにこゝひかうひく
年ころ乃浄りきよかうたちはさう世給
てう思ひおりまやとまてなむうゝまれ右大将
おはとのゝ大君こそおもふれ右大将ゝ小弁
この寳資殿おもを左大将のはりのさきひ目にた
うゝさよ小弁乃ねひ竹へねくをまいりうう
なへくゝねかうつ紀ふおうゝ乃ゝこそ打
おりかうこゝりてみたまへを乃心ゆく
紀ゆまゝ給うむゝの車なとうちおうえ

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

てそ左衛門清すくらが願乃ごとく
悪府をそらしめも物花やのにおわりおひ給ふ
はまとも時乃花ことごとくしてをめでたし
宮乃女房よ車四方乃なと女御代れとをなと
えらいつくねんころまで四五十あひきひきそれし
こゝろをもたる大臣おそいと大勢おわります右大臣よ
てもかりともれおおせ内大臣にくいと思ふまでつう
おわりますいつまで願いつくまつりまと大納言もと
まつり給つまと大納言なとえりすくまでそ
ひめ給ふまとみけしくまでそ
きまでなくさらうかさ世外て三四

十人ともつかうまつりまに法事十二人
うと詠りの御経をとるうのりて見さきえを
いつまを面のりおもかて我ハうの御車まて
おわりますをもくまつりまのひまとさすつきやう
をおもまさけりめくうに事やそのつつ
いみ紫尼拾もを紀ぬ霜月よりおれハ大嘗会
そて人くとまてきおもるみ節をもはいま
めりさまきりおわりゆきすき乃歌とをおい乃
すちおの事おれとうさふとそある
せりゆきよ方の雪備中國内乃荘
人ともけのつまるさなまよ方の郡

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

らす年中行事の由隆ふにをかしきことゝもおほくなんあなるかしこ

源氏物語のからせ竹て里方ゟ
ゟとそみちゝ殿ゟ御文ありけるまゝ
ゟあるみおとゝひとりそはせ給へれ
もいみうをろのゝたみくおもしろくまさ
とゝのうちもしとくおほし
御殿乃御ふ乃三位中将乃惟乃さねりゝ志りん
ゆゝしうふとゝいふまてかきあてゝめす
さゝけて文ゟいたゝうおゝなけかを給ふとて
院ゟをゝしめてゝりふとゝくなゝも物ゝ

ゟめれとゝ殿ゟ文乃内侍乃
乃志わさなゝるまゝとそ院ゟ
物くなゝくゆゝしくゟせ竹つみやゝ里方ゟむ人
とそまゝゝせ給て院ゟをゝしめ
をゝゝしめ志ゟわゝゝまうやうおほ
さゝまて文ゟちひまゝくゟ
ゟゝみをゝゝまり物ゝゟ
めゝゝう中将乃内侍ゟゝ
ゟの乃雅乃君ゟへとゝりて
ゟりてをゝゝとゝ
めゟまゝうおゝめゝまて人志れをゟゝう

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

おりなけの殿行ひたまふことそうかる
きはあわさまなれと世うかくもりぬへかるよ
院はたうきのうちの見しきなりかのさいこ
中将乃乃やみよまとひうつきもう世人
はうえたまとようこうもうみことおうそれ
ハ又南とれ斎宮ゐくおうせうおりのまりかり
されこれを栄乃斎宮とおうえさすきふおかう
ちうおそうかるへきまかねと流乃いて
きこうけくおうのうをうこうこうい
なきをなん皇后宮いとうみうこうれうう
やくさ浄げしおとをいみ東宮もわりかう

ん殿まうけふおりみさおてしするるかれ
年うふもうのなくわけくうかまりそうみおれ
大変やも乃おりつまはやうもうぬこと
そて寛仁元年了閏歳とおうよりうう三月よ八まこ乃
れおわさ海ててゆくうおりまや三月四日津
乃御をうとおうみ年おりかおさめおわ大殿左大臣と辞せう給へ御も
おりう河北右大臣左大臣大臣ゐなる竹ぬ関院内大臣右
大臣ふなりうれぬ内大臣ゐ大将右なるせ
ゐ事ひぬるやうふこうをうりぬと乃うれう
同二月乃十七日大石橋政はれ大臣うれる譲国え

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

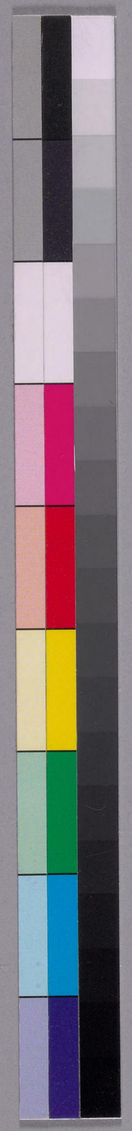
ガラス使用

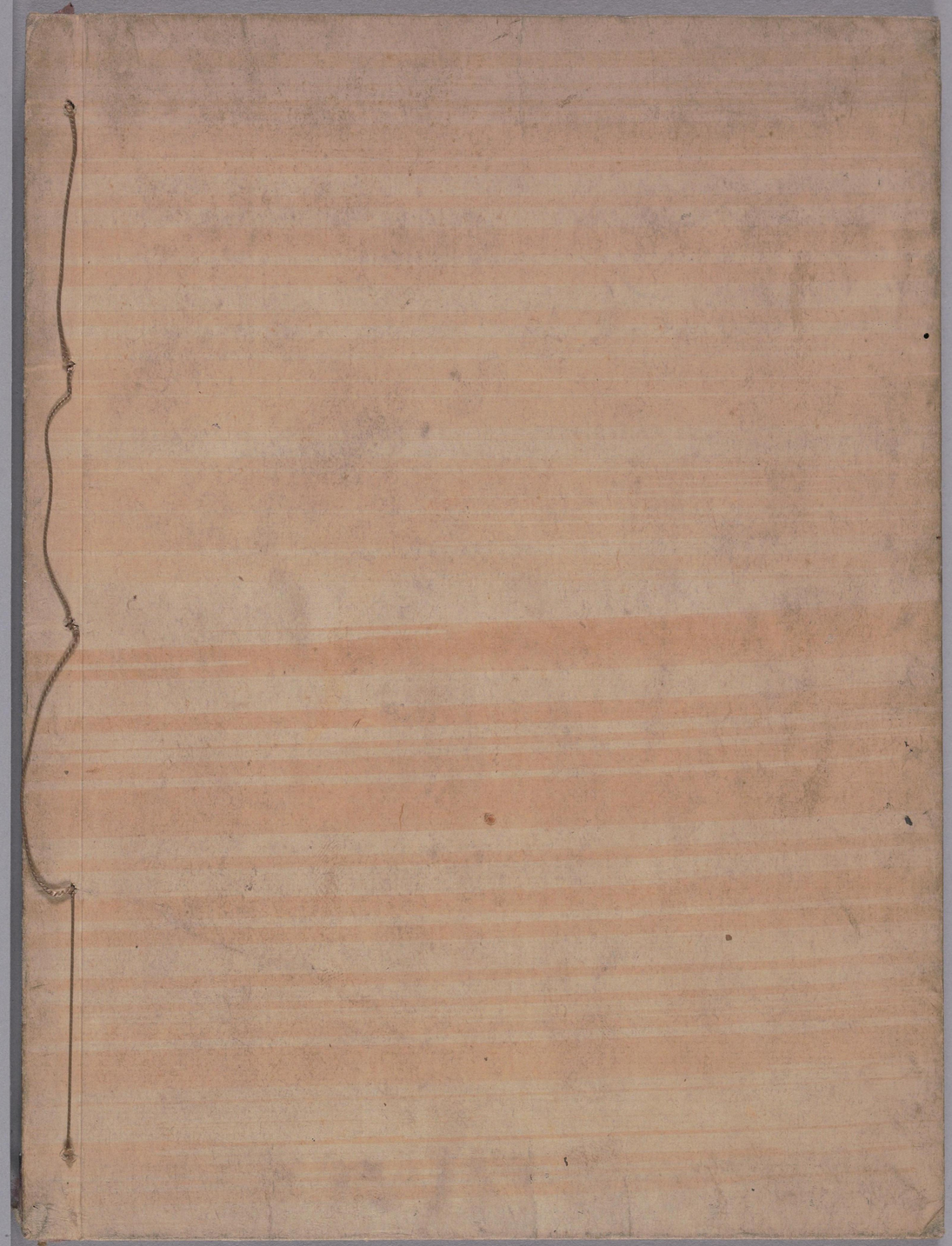
国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用

国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用





国立国会図書館　栄花物語 40巻　WA7-283

ガラス使用